

＜生涯学習支援センター＞の取組み

当館では、特に下記のことに取り組みました。

1 市民の皆さまが市民センターを快適にご利用できるようになる

生涯学習支援センターは、仙台駅からも近く、年間10万人以上の方々にご利用いただいている施設です。ロビーは5階にあり、施設のご利用の前後や休憩などでお使いいただいております。以前から、観葉植物やポスター、各種印刷物などを置いていたのですが、少し雑然としているというご指摘もありました。そこで、配置や置き方を工夫し、すっきりしたロビー空間の中でゆっくりと情報収集をしていただけるようにしました。

また、ガラスケースや壁面には、地域の方がお持ちの貴重な資料や、ご利用の皆さまの作品などを飾り、地域に関心を持っていただけるよう工夫したり、活動サークルの紹介をしたりしております。



5階ロビー



廊下の壁面とガラスケースでの展示

＜宮城野区中央市民センター＞の取組み

当館では、上記取組みの中で特に下記のことには力を入れて取組みました。

2 市民の皆さまが学びや情報を活かして地域で活動するようになる

事業名：「宮城野原案内人養成講座」

平成24年8月に開館し、仙台市内で一番新しい市民センターである当館は、「地域の魅力を知ること」そして「地域の魅力を伝えること」に力を入れて取り組み、「宮城野原案内人養成講座」を実施しました。この講座は複数年計画の事業として平成24年度から実施し、3年目である平成26年度は、仙石線をテーマに宮城電気鉄道からJR仙石線までの歴史・現在から未来について学び、地下化に伴い消えた13の踏切を辿りました。講座終了後2名の新しいメンバーも加え、9人がガイドボランティアとして活動しています。

平成26年度のガイドボランティアの活動として、4月のJR東日本主催の「駅長と歩く小さな旅」において、乳銀杏や榴岡公園をガイドし、また原町小学校地元学では小学校5年生の総合的な学習の授業「目指せ！宮城野大使！過去・現在・未来」の中で、原町・宮城野の歴史、お店、施設について話をしました。他には、JR仙石線陸前原ノ町駅に対して「小さな旅」のコース提案なども行いました。

当センターでは今後も地域の皆さまが学びや情報を活かして地域で活動できるよう講座の実施や活動支援に努めてまいります。

宮城野原案内人養成講座（全6回）

第1回9月3日（水）「仙石線を辿る」と題し、案内人のメンバーでもある矢吹氏を講師に、宮城電気鉄道からJR仙石線について現在から未来についてのお話をいただきました。

第3回と第5回では、実際に地下化に伴い消えた踏切を歩きました。

あらたに3名がボランティアに登録しました。



4月19日（土）「駅長と歩く小さな旅」でガイドをしている様子。JR仙石線陸前原ノ町駅に集合し、苦竹の陸上自衛隊仙台駐屯地の桜まつりを見学し、希望者に船曳堀跡をガイドしました。また、乳銀杏や榴岡公園など宮城野区ではなじみ深い場所もガイドしました。寒い中集まった方々もガイド付のコースに大満足の様子でした。

6月27日（金）の原町小学校地元学において、5年生に対し、原町・宮城野の歴史について話している様子。昨年度5年生と亜炭を採取に行った時撮った写真などをまじえて、15分間では話つくせない内容に、子どもたちは真剣にメモを取っていました。今年度は、子ども達の発表を聞くことができませんでしたが、年々内容を充実させて、子ども達にわかりやすく伝えられるようにしています。



＜ 高砂市民センター＞の取組み

当館では、特に下記のことには力を入れて取組みました。

3 地域の方々や団体が活動を通して市民センターを拠点につながるようになる

■高砂小学校区地元学をコーディネートしました。

子どもたちが地域の歴史、文化、様々な活動など伝承すべき地域の宝物を地元の方々から学ぶ場を提供しました。小学校、地元、市民センターで地元学推進委員会を立ち上げ、互いの知恵と地縁を使い学ぶ材料をそろえています。1年生は生活科で「むかしあそび」、4年生は総合的な学習の時間で「郷土を開いた人々」、5年生は社会科で「仙台港見学」などを学びました。



■高砂サローネ 2014 カフェコンサート

東日本大震災で被災し、仮設住宅やみなし仮設住宅に住まわれていた方々が、復興公営住宅への転居も少しずつ始まり、再び状況の変化に置かれています。そのような中、市民センターに集い交流することで、震災前に住んでいた地域で築かれていた絆をより強めてほしいと、カフェコンサートを実施しました。地域の復興支援の団体・企業のボランティア、県外からのボランティア、さらには海外からの支援協力もあり、皆さんの思いの詰まった楽曲をコンサートに反映させることができ、参加者の心が和み充実したものになりました。



この事業を通して、市民センターが様々な団体の特性を生かし繋げていくことで、地域の輪に広がりをつくり出すことができました。

＜岩切市民センター＞の取組み

当館では、特に下記のことには力を入れて取組みました。

4 市民の皆さまのご意見が市民センター運営に反映できるようにする

平成 25 年度の「地域懇談会」において、地域諸団体及び住民の皆さまより、「岩切の自然や歴史を広くアピールする講座を企画して欲しい」とのご意見をいただきました。

このご意見を踏まえ、平成 26 年度主催講座として「歴史のまち・岩切の四季（全 4 回）」を企画いたしました。

地域内外の皆さまにご参加いただけるよう、幅広く広報を行い、毎回たくさんの方にお集まりいただきました。

また講師には「岩切歴史探訪の会」会員の方に依頼し、普段は訪ねることの難しい歴史スポットを散策したり、地元野菜「岩切曲がりねぎ」を使った料理を味わうなど、幅広い視点から、岩切の良さを再発見していただけたかと思えます。

当センターは、今後も地域の皆さまのご意見を取り入れて生涯学習の推進を図ってまいります。皆さまが快適に市民センターをご利用いただけるように、職員一同取り組んでまいります。



＜鶴ヶ谷市民センター＞の取組み

当館では、特に下記のことには力を入れて取組みました。

4 市民の皆さまのご意見が市民センター運営に反映できるようにする

鶴ヶ谷地域では高齢化が進んでいるため、いくつかの団体がサロンを開催していますが、それらに参加することもなく家に閉じこもってしまっている人も多く見られます。そこで、市民企画会議「交流の場をつくろう！」では、地域において顔見知りが増え、人々の輪が広がり、気軽にあいさつが交わせるようになるためにはどうしたらよいか考えました。そこで、より多くの方が安心して集える仲間づくりの場として、平成26年7月から平成27年3月まで、全9回の「市民センターサロン お茶っこ会」を企画・開催しました。毎回たくさんの地域の方にお集まりいただき、楽しい交流の場となりました。

前半のミニ講座の講師を地域の方をお願いしたことが地域人材の発掘に繋がり、後半のお茶会の中では地域のみなさんの生の声を聞くことができました。これらの成果を今後の市民センター運営に反映していきたいと考えています。



8月6日（水）

大越 敏男 氏

- ・民生委員さんのお仕事について聞きましょう
- ・茶話会



9月3日（水）

嶋 勝己 氏

- ・ハーモニカの音色を楽しみみんなで歌いましょう
- ・茶話会



11月5日（水）

江間 小四郎 氏 菅野 千尋 氏

- ・ピアノの生演奏を聴きながらお茶を飲みましょう



3月4日（水）

桂 友楽 氏

- ・大いに笑って健康に
- ・落語を楽しみましょう
- ・茶話会

＜榴ヶ岡市民センター＞の取組み

当館では、特に下記のことに取り組みました。

4 市民の皆さまのご意見が市民センター運営に反映できるようにする

市民センターのお部屋をご利用いただいているお客様やご近所の方に、寄り道感覚で立ち寄っていただき、気軽な雰囲気の中で普段の生活で感じていらっしゃることや市民センターへの思いをお話ししていただけるように「よりみちカフェ」と名付けたサロンを開催しました。

1月は「黒豆屋」3月には「甘酒屋」として、「和」のイメージでロビーにつるし雛やさくらを飾り、皆さんで座卓を囲んでいただき、いろいろなお話を聞かせていただきました。参加された方からは、「次はいつやるの?」「市民センターはいろいろなことをしているんだね」などといったお言葉をいただきました。また、さまざまな情報提供をさせていただきながら、普段の生活で感じていらっしゃることやご要望などを伺うことができました。

今後も「よりみちカフェ」を通して市民センターが気軽に立ち寄れて楽しいところと思っただけのように、また、皆さまの思いが市民センターの運営に反映できるように職員一同取り組んでまいります。

(よりみちカフェ「黒豆屋」の様子)



(よりみちカフェ「甘酒屋」の様子)



＜東部市民センター＞の取組み

当館では、上記取組みの中で特に下記のことに力を入れて取組みました。

2 市民の皆さまが学びや情報を活かして地域で活動するようになる

「東仙台耀きクラブ」

地域の特性や景観等の地域資源を学び、新たな地域の可能性を考える場を共有し、地域の核となるイベントや、行事を地域住民自ら企画し実行することで、連携・協働した地域活動が推進されるよう、以下の2つの講座を行いました。

「伝えたい地域の歴史～再考」講座では、

地域の特性を活かし、平成17年に刊行された地元学冊子を基に、地域研究を行い、次世代へ繋ぐための地域史「地元学伝えたい東仙台～絵図・地図・聞き取りで伝える歴史と暮らし～」を作成しました。受講生と共に実行委員会を立ち上げ「宮城野区まちづくり助成金」を活用し、地域のみみなさまのご協力のもと、地域を学ぶ貴重な資料作りを行っています。また、「東仙台歴史探訪の会」として、地域の小学校での地元東仙台を学ぶ授業の講師として、小学校5年生に授業を行いました。



「地域ブランドを創ろう」講座では、

かつて藩政時代から名物として地域にあった菅野屋「案内の名物湯豆腐」の再現を試みました。地域で活動する食育サポーターと連携し、口伝でしか残っていなかった調理方法を、関係者の聞き取りや資料を基にして、実際に再現することにより、地域内外に東仙台地域をアピールできました。また、それらの技術を伝承する人材の育成にもつながりました。



双方の受講生ともども、地域の可能性を発見すると共に地域内外に活動をひろげ、オリジナル情報を発信するなど主体的に地域づくりに関わり、東仙台への関心を高めることに取り組んでいます。

今後も、常に地域の応援団として、市民センター運営に取り組んでまいります。

＜幸町市民センター＞の取組み

当館では、特に下記のことには力を入れて取組みました。

3 地域の方々や団体が活動を通して市民センターを拠点につながるようになる

幸町市民センターでは「学校へ行こう隊」という事業を開催しています。各学校の地域連携担当の先生と市民センターが話し合いをもち、それを踏まえて地域の皆さまを学校に派遣し、授業の講師などを務めていただく、という市民センターのコーディネート機能を活かした取り組みです。

講師は募集をかけて登録した地域住民や、地域でご活躍の団体を中心にお願ひしています。

今年度は地域の3つの小学校（幸町小、栢江小、幸町南小）の「手話教室」、「キャップハンディ体験」、「しめ縄づくり」や「昔あそび」の授業の講師、また水泳の授業の際の見守りなどの要請を受けて活動しました。

「手話教室」は、学んだ手話を取り入れ、学習発表会、市民センターまつりで発表しました。「しめ縄づくり」は、5年生が米づくりをしたわらを使用し、日本の伝統行事を学ぶ機会になりました。「昔あそび」は、あそびを通してルールを覚えたり、教え合う機会になりました。

写真左は幸町小学校の「手話教室」の様子です。「手話サークルたいよう」の皆さまが日ごろの学びの成果を活かして、小学生に手話を教えました。

写真右は幸町小学校の「昔あそび」の際の一コマです。「昔あそび」が終わった後、授業で普段から学習しているお茶のお手前を、お礼にと講師の皆さまに振る舞っているところです。子どもたちの思わぬおもてなしに一同感激し、年齢差を超えた交流を深めることができました。



＜ 田子市民センター＞の取組み

当館では、特に下記のことには力を入れて取組みました。

3 地域の方々や団体が活動を通して市民センターを拠点につながるようになる

田子地区では東日本大震災の前年より、市民企画会から発展した事業として地域防災訓練に取り組んできました。これは各町内会の防災訓練を同日・同時開催することで、中学生が授業の一環として訓練に参加し地区の中で貢献する気持ちを育むものです。2回の事前打合せ会では町内会と中学生が共に訓練内容を考えました。年度を重ねるごとに関わる団体も増加し、今年度は田子小学校が授業の一環として取り組むなど拡がりを見せています。

今年度は各町内会での避難訓練のほかに田子中学校での避難所開設訓練や、避難所運営に関する講座を開催しました。地域連携の関係強化や相互協力がより発展していくように、具体的な体験を通して地域の方々の顔の見える関係を築き、住民同士の交流を活性化し、防災力の向上につながるよう努めました。

体育館で非常食の配布



体育館で避難者の受付



プールからバケツリレーで水を運ぶ



倒壊した建物からの救出



消火訓練



＜福室市民センター＞の取組み

当館では、特に下記のことには力を入れて取組みました。

3 地域の方々や団体が活動を通して市民センターを拠点につながるようになる

福室地域がつながるためのキーワードは「こどもたち」。そんな考えのもと、地域の方々の協力を得ながら、福室小学校、中野栄小学校との連携事業に取り組みました。学年毎に適切な内容を考え、「昔あそび体験（1年）」 「地域の歴史ウォーク（4年）」 「戦争体験を聴く（6年）」というテーマを設定し、地域の方々を講師として招き、授業の一環として展開していきました。

高砂第二地区民生委員児童委員の皆さん、市民センター講座から立ちあがった「高砂おたから探訪の会」のメンバー、海外で悲惨な戦争体験をした女性などが講師として自身の持てるスキルや経験などを提供してくださり、子供達との楽しい交流の時間にもなったようです。

反省会では、出席者の中から「こういう取り組みの中に、地元の老人クラブも是非、参加させたい」という声が上がリ、中野栄小学校で取り組んでいる「学びのコミュニティ推進事業：学コミ中野栄学舎」の昔あそびコーナーに、さっそく参加していただきました。



＜ビー玉遊びの遊び方もしっかり学びます＞



＜地元のお寺の歴史を学びました＞



＜悲惨な戦争体験を聞く子供たち＞



＜学コミ中野栄学舎にはたくさんの方々が参加してくれました＞